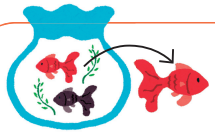
保護者のみなさまへ

# コレだけは知っておきたい！ イマどき教育NEWS

## どうなる？ 日本の英語



### “金魚鉢”から“大海”へ 気づき（Noticing）のステップ

**Input**
意味のある文脈から言語をインプット

It was hot today.
（今日は暑かった）

【子どもの気づき】過去を表すにはwasを付ければいいんだ！

**Uptake & Forced Output**
気づきに基づき、教えられた表現を意識的に使ってみる

I was play baseball.
（僕は野球をした）

？

**Intake/Output**
表現が正しければ、使いながら習得。間違っていれば修正して習得。そして、自然に使えるようになる

I played baseball.
（僕は野球をした）

【子どもの気づき】be動詞の過去形はwasで規則動詞の過去形はedを付けるんだ！

**NEA（教育アライアンスネットワーク）では、この秋、「［学び］の教育セミナートリロジー」を開催しました。第1回のテーマは「英語」。ここでは基調講演の吉田研作先生、関谷昴さん、中澤理さんのお話をダイジェストでご紹介します。**

【基調講演】

### 日本の英語教育の方向性と大学入試改革

**吉田研作先生**

日本英語検定協会会長、上智大学名誉教授、国土交通省航空英語能力証明審査会会長。元上智大学言語教育研究センター長、上智大学国際言語情報研究所所長、外国語学部長。学習指導要領、大学入試改革に関わる。

#### “金魚鉢”から“大海”へ 日本の英語教育は大きく転換

学習指導要領改訂により、日本の英語教育は、“金魚鉢から大海へ”と大きく変わりました（左図参照）。

従来の英語教育は、日本だけの閉じた“金魚鉢”の世界で行われ、コミュニケーションは無関係。「文法訳読」を中心とした、文法、語法、発音などの「正確さ」を重視していました。

ところが、1964年の東京オリンピック、1970年の大阪万博を機に、金魚鉢にひびが入り始めました。外国人が日本を訪れるようになり、英語でコミュニケーションする必要性が生じたからです。英語文献を読むための「教養の英語」と、外国人と対話する「コミュニケーションの英語」をめぐって「英語教育大論争」も起きました。

その後、英語学習ブーム、国際理解の必要性などの議論を経て、「コミュニケーションの英語」へ大きく舵を切ったのが、新しい日本の英語教育です。

#### 日本の英語教育の現状は“金魚鉢”から脱していない？

新しい英語教育では、中3でCEFR・A1（英検3級程度）、高3でCEFR・A2（英検準2級程度）を到達目標としています。2019年の「教育課程実施状況調査」によると、英語力が高い生徒が多い中学・高校では、次のような指導が実践されていました。

【中学校】小中連携、小中接続ができている／授業の75%以上の言語活動が英語／パフォーマンステストを実施／ICTを活用している
【高校】先生の英語力が高い（CEFR・B2以上、英検準1級以上）／授業の半分以上の言語活動が英語／教師の発話も半分以上が英語／ALTをうまく活用している／パフォーマンステストを実施／ICTを活用している

一方、数年前の「英語指導に関する実態調査」によると、高校の英語授業の大半が、音読、発音練習、文法解説です。また2020年の「TOEFL iBT」では、アジア28か国で日本は下から2番目。Speakingは最下位です。

つまり、まだ“金魚鉢”の中にいて、“大海”でコミュニケーションできるような英語が身についていないのです。

#### 今後も変化する大学入試 “大海”を泳ぐ英語力は必須

今年度からの「大学入学共通テスト」は、CEFR・B1（英検2級程度）までの範囲で出題されています。しかも、思考力重視で、文法・発音・アクセントなどの出題はナシ。リスニングの発音もネイティブだけではありません。

今年7月、「大学入学共通テスト」では英語の民間資格検定の導入を断念することが正式に発表されました。ただし、大学の個別試験で英語の民間資格検定を導入するなど入試改革に積極的に取り組んでいる大学には、補助金を増やす優遇策も示されました。

未来を生きる子どもたちに必要なのは、やはり“大海”に出る英語力です。小学生のうちから、自分の考えを英語で表現し、英語でコミュニケーションする経験を積み重ねてほしいですね。

**従来の日本の英語教育**

**“Fish Bowl”**
**……金魚鉢の中の英語教育**

- 外国語として英語を学ぶEFL（English as a Foreign Language）の教育。外国人とコミュニケーションすることがなく、学校外で英語は不要。
- 英語文献などを読むために英語を学ぶ「文法訳読」を重視。
- 「文法訳読」には、ネイティブ・モデルに基づく文法、語法、発音などの正確さが最重要。実際にコミュニケーションで使う“My English”は不要。

**新しい日本の英語教育**

**“Open Seas”**
**……大海に出る英語教育**

- 実際に外国人とコミュニケーションできるよう**第2言語として英語を学ぶESL（English as a second Language）**に。ネイティブレベルが目標ではない。
- 「聞く」「話す（発表／やり取り）」「読む」「書く」の4技能5領域を身につけ、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。
- 構造シラバス（学年ごとの学習内容を文法構造の難易度によって決める）から、**コミュニケーションシラバス（コミュニケーションのあり方にベースを置く）**に。
- 「導入→練習→活用」ではなく、自己紹介やインタビューなど**タスクベースの機能的な学習**に。
- 英語で理科を学ぶなど、**英語をツールとして内容を学ぶCLIL（内容言語統合型学習）**を重視。**教科横断型の学習に。**
- CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を基準に、**「CAN-DOリスト」**を設け、難易度を規定する。
- ネイティブのような発音ができなくても、自分の言いたいことが表現できる**“My English”**でOK。
- 思考力・判断力・表現力においては、Accuracy（正確さ）よりもAcceptability（受容性）を重視。**英語を使って、気づいて、理解していく。**

# 「楽しく学ぶ」を間違わないで！教える側こそ意識を磨いて！

**中澤　理**さん

ANNIE..GLOBAL EDUCATION 代表。大学卒業後、23歳から学習塾を立ち上げ、英語スクール、インターナショナルスクールなどを展開。約30年の指導経験を活かし、自治体支援や学校との提携事業、Bリーグチームでの英語力強化プロジェクトなど幅広く活躍。『熱血！おしえて！なかざわ先生。』（エフエム豊橋）出演中。

歌やダンス、ゲームを通して、ニコニコ笑顔で英語を「楽しく学ぶ」といっても、真剣に取り組むなかでの「楽しさ」が重要です。

たとえば、私たちのスクールでは、3歳の子と次のようなフレーズのやり取りをします。

**How did you come here today?**（どうやってここに来たの？）

——**I came here by car.**（車で来ました）

**What grade are you in?**（今、何年生？）

——**I'm in kindergarten.**（幼稚園生です）

つまり、子どもがイメージでき、かつ答え方の例を先生が提示すれば、幼児や小学生でも、それを真似て英語で答えられるわけです。

今年から、中学校の教科書が難しくなりました。保護者の時代に中1で習っていたものは、小学校で既に習った前提で中学英語が始まりますから、不安を訴えてくる保護者も多いです。小学生までの間に大切なのは、次の2つです。

・英語で質問されたことをイメージでき、英語で答えることができる。ひと言でもOK。

・英語に触れる経験を多くする。

英語力を高めるうえで、指導する側が押さえておきたいポイントをまとめておきます。

**① 国語力に合わせた英語力を**

5歳なら○○、小3なら○○、といった国語力の発達段階を英語指導に活かす。日本語でイメージできることは、英語で習っても理解でき、やり取りできる。大人の感覚で判断しない。

**② 目指すゴールをイメージした授業を**

今日の授業でどのようなゴールを目指すのか、明確にイメージして教えることが大切。

**③ 言語の力はテストだけでは測れない**

ペーパーテストだけで英語の力をすべて測ることはできない。英語力のスタンダードな指標になるものを、学校、学習塾、英語スクールで共有し、日本全体の英語のレベルアップに。

——「楽しく学ぶ」を間違わず、学ばせ方、学ばせるものに対して、本当に、これを続けていけば英語力が身につくのか？——この課題に対して、教える側はその意識を磨くことが大切ではないでしょうか。

# 「英語」から広がる世界 ～世界中の友達とともに生きる～

**関谷 昂**さん

1993年、神奈川県平塚市生まれ。東京外国語大学英語専攻卒。在学中、世界44か国を旅する。現在は、府中のまちづくりに参画。中高生の学びの場やシェアハウスの運営、まちのコーディネートなど、未来社会の創造に力を注ぐ。Youth Action for Fuchu 代表理事、東京外語会常務理事、東京外国語大学経営協議会委員ほか。

## 世界を豊かに生きるツールとしての「英語」

私は、東京外国語大学で英語と社会学を学びました。7年間の在学中、英語学習者コミュニティの設立、フィリピンでの教育支援活動、世界一周の旅、「世界青年の船」への乗船など、英語を使ってさまざまな活動をしてきました。その根底にあったのは、「違う価値観を知りたい」「広い世界を見たい」という好奇心でした。

私が英語に興味をもったのは、まず「言葉としての魅力」でした。言葉は、人間が世界をどのように認識しているかを表すツールであり、その認識は言語によって異なります。

たとえば、英語の「Liberty」は、明治時代に福沢諭吉が「自由」と翻訳しました。当時、「自由」という言葉は「勝手気まま」という意味が強かったのです。しかし今は「制約がない」「自分から主体的に動く」という意味合いも強いです。このように、日本語と英語を行ったり来たりすると、徐々にその概念の輪郭がはっきりしてくるおもしろさがあります。

## ともに生きていく仲間としての「英語」

英語が世界を開く。その一例を紹介しましょう。オンライン上の言語は、英語が約60％を占め、日本語は2・1％といわれています。つまり、英語だと、日本語の28倍もの情報がオンライン上で得られるのです。もっといえば、英語を読んで理解できれば、世界について28倍知ることができるということです。

私は大学1年のとき「世界の英語学習者コミュニティ」を作りました。22か国から130人ぐらいのネイティブではない英語学習者が参加して、それぞれの国のニュースを語り合う場です。英語が世界を広げるきっかけになり、英語を学習している友達が世界中にできました。

実は、世界で英語を話す15億人のうち、11億人はネイティブではない人たち。外国語として、または第二言語として英語を使っている人たちと話すほうが多いわけです。今の世界で共通言語になっている英語を学ぶことは、さまざまな世界の人たちとの出会いにつながります。

## 「英語を学ぶ」＝「コミュニケーションを学ぶ」

これまでの私の経験や、私が出会った人々から考えると、「グローバル人材」というのは、目の前の人を理解しようとする力や、自らのことを伝える力がある人ではないか、と思います。

仕事で英語を使わないから勉強しなくてもいいや、と思う人もいるでしょう。実際私も、今は英語を使うような仕事はしていません。

でも、英語を通して、相手が自分と違う価値観を持っていることや、言葉でしか伝わらないことがあるという「コミュニケーション」を学んだことは、確実に今の仕事に活きています。

コロナ禍で、オンラインのコミュニケーションが日常的になり、距離は大きな問題ではなくなりました。仕事で使わなくとも、オンライン上やSNSなどで世界の人たちと英語でコミュニケーションする機会はますます増えるでしょう。まさに〝大海〟が近づいてきています。英語を通じて〝大海〟に泳ぎだし、無限の可能性を広げてほしいですね。

# 英語力をつける学びとは　～日本英語検定協会～

### ポイント❶ Using English

普段の生活でどれだけ英語に触れるか。

**★日常生活に英語を取り入れる5つの習慣**

①スマホやブラウザの設定を英語にする（実用的な単語が身につく）
②単語を調べるときは英英辞書を使う
③周りの状況と自分のしている行動を英語にしてみる
（最初は単語、次にフレーズで。実況中継のように）
④ Web で、英語で調べ物をする（最初は日本語、次に英語で）
⑤英語字幕で映画や海外ドラマを見る

### ポイント❷ Four skills

Reading ／ Listening ／ Speaking ／ Writing の4技能をバランスよく身につけるには、「聞く」「読む」で、英語を情報として取り入れる「インプット」を。英検ウェブサイトの過去問を活用して！
www.eiken.or.jp/eiken/exam/

NEA 一般社団法人 Networks of Educational Alliance 教育アライアンスネットワーク
2021年10月28日発行
担当／NEA事務局（生澤和弘、千代延勝利、柳裕樹）　デザイン／髙橋郁子　編集／渡邊良子